

「正しい知識と意識起こすののために」

同和問題の講演会や研修会などでのアンケートに「知らないでいいことを知ったため、逆に差別を意識してしまい、よけいに差別することになるのではないか」という意見を目にします。

「知らないでそのままにしておいてほしかった」とか、「(講師が)そんな話をいつまでもしているから、差別がなくならない」とかいう人が少なからずいます。

「寝た子を起こすな」論といわれますが、みなさんはどう思われますか。寝た子(＝知らない子)には、教えるという事でしょうが、寝た子はそのままだけでも寝ている人はいません。本当は寝ているように

tomoni ikiru

見えて、建前ではきれいごとを言っている、本音では予断や偏見に流されたりすることがあるのです。結婚や就職など、自分に直接かわってくる問題になると、寝たふりをしている本音が出てきます。

同和問題での建前と本音の溝を埋めるためにも正しい知識と意識起こすが必要ではないかと考えます。

そのためには研修会は、「1回受けたからもう受けなくてもいいだろう。」ではなく、可能な限り参加して研鑽を積んでほしいと思います。同じような話でも、前回とは違った受け止め方をすることもあります。繰り返し聞くことで、ストーンと胸に響くことがあります。多くの市民のみなさんに研修会等への参加をお願いします。

社会教育指導員 木村 博重

市交際費の支出状況

平成29年4月分

支出種別	区分	件数	金額(円)
弔 慰	今月分	2	21,200
	累計	2	21,200
見 舞 い	今月分	0	0
	累計	0	0
御 祝	今月分	6	19,200
	累計	6	19,200
賛 助	今月分	0	0
	累計	0	0
激励金	今月分	0	0
	累計	0	0
接 遇	今月分	1	3,860
	累計	1	3,860
会 費	今月分	7	26,000
	累計	7	26,000
その他	今月分	2	6,800
	累計	2	6,800
合 計	今月分	18	77,060
	累計	18	77,060

◎詳細は市のホームページに掲載しています。

問い合わせ 総務課 秘書係  
☎75-2115

市長コラム

Message for citizen



市長コラム



子どもたちが主役となる時代・責任世代となる時代に、先端技術を駆使し、各々個性を伸ばし、生きがいを感じつつ活躍してほしい。暮らす地域が田舎でも都会でも、そんな人生の開拓や才能発揮をしてほしい。そのため今から将来を予見し、できる限りの努力をする。それがICT教育の基本の考え方です。

多久市では、パソコン整備、電子黒板の全校全教室整備、ICT支援員配置もし、最初は苦手でも使える環境も整え、予算や支援を確保し、さらなる改善を進めています。

今や技術は10年前に比べ画期的に進み、多くの人が普通にスマホなどICT端末を利用できる時代です。今後はさらに進んでいきます。まさに第4次産業革命の渦中です。これはICT(情報通信技術)、IOT(あらゆるものをインターネットで連結)、AI(人工知能)を活用して新産業も創造する変革で、世界各国も注目し、日本も力を入れて臨む産業革命です。

全国ICT教育首長協議会

市長 横尾 俊彦

このような時代のニーズに応え、次代を担う人材を育てるICT教育の効果的な実践には、学校にパソコン、タブレットパソコン、通信環境などの整備や、指導サポートするICT支援員、プログラミング教育、人材育成、スキル研修などの充実が不可欠ですが、単独自治体では叶え難い課題もあります。

そこで連携と切磋琢磨をめざす114人の自治体首長有志が集い、全国ICT教育首長協議会を立ち上げ、会長に就任して活動しています。5月は東京ビックサイトでの教育ITソリューションEXPOで千数百人を前に基調講演を行い、多久市の取り組みやイノベーションの必要性をお話しました。立ち見でいっぴいの会場という大役でしたが、「参考になった」「感動した」のコメントも頂き、さらに頑張らねばと肝に銘じています。

新たな時代への新たな挑戦を多久からも進めていきます。